

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	マザーズ城東		
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 療育環境		小学校就学をスムーズにするという目的のもと、黒板や机、椅子など、小学校の教室を意識した環境にできている。	定期的に行っている、近隣小学校の支援学級の見学を継続的に行い、小学校の教室環境の実態を把握し、自事業所の療育環境の整備に生かす。
2 活動プログラムの充実		活動後に毎回職員間で意見を出し合っってプログラムの修正を重ねており、組織的に立案している。 実施季節等をふまえて1年分のプログラムが用意されている。 児童の利用頻度に配慮して、幅広い活動に参加できるようにスケジュールを組んでいる。 必要に応じて専門的支援を実施して児童や保護者の幅広いニーズに応えている。	研修会への参加や日々の勉強会により、さらに専門的な知見を職員が身につけて、効果的な活動プログラムの立案につなげる。
3 小学校への移行支援の充実		児発管が他職員に意見を聴取した上で移行支援会議などに積極的に参加し、得た情報を事業所に持ち帰って全職員に共有し、支援に生かしている。	学校や園だけでなく、保健・医療機関との連携もより密に行っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 地域交流の機会がない		土曜のみ、1回あたりの療育の時間が1時間のため、時間的に難しい。	職員の知人の地域住民に来所してもらって人形劇を上映してもらった。放デイの児童向けのイベントではあったが、児童発達支援の児童にも声をかけたところ、数名参加があった。このような機会を増やすべく、保護者会で地域住民を招いた上で、親子参加型のレクリエーションを企画する等施策を講じる。
2 ADHD傾向の児童に対する支援		児童の気分が高揚したときにクールダウンできる環境が整っているとは言えない。 小集団療育のため、集団の場から離れてしまう児童にとって学びを確保できないことがある。	常時別室を空室の状態にしておいて、児童の気分が高揚したときに移動できるようにする。 集団の場から離れてしまった場合でも、職員が付き添って落ち着くまでは個別で取り組んで集団に戻ることを目指し、徐々に集団で過ごせる時間を増やす療育方針を取る。
3 外部での、児童発達支援特有の研修に参加する機会が少ない		法人内で児童発達支援を運営しているのが当事業所のみであり、風通しが良いとは言えない。	県療育センターとの関係づくりを目指して、センター主催の研修等への参加を試みる。